

各 位

御 礼

春寒の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、去る2月21日（日）に開催いたしました「第21回全国車いす駅伝競走大会」は、貴台をはじめ約4,300名余に及ぶ関係各位のご尽力とご協力により万全の体制で当日を迎えました。天候も温かい春空の晴天となり、午前11時30分のスタート時の気温は9度と選手にとっては駅伝日和ともいえるベストコンディションとなりました。

レースは、スタート直後から快調に飛び出した大分A、福岡など5チームがトップ争いを繰り広げ、4チームが同タイムで中継するという、出だしから手に汗を握る展開となりました。続く2区では、5位で中継した京都Aが順位を2位まで上げて大分Aを追い上げ35秒差で3区に中継し、3区でも徐々にトップとの差を縮めました。4区では京都Aが前回同様の快走を見せ、大分Aからついにトップを奪い、逆に1分差をつけアンカーに引き継ぎました。前回大会ではトラック勝負となった最終区においても京都Aは独走を続け、2位に53秒差をつけ46分20秒のタイムでゴールし、2年連続3回目の優勝を果たしました。なお、2位は3年連続で大分A、3位は4年ぶりの大阪となりました。

京都Bも健闘し、昨年より1分28秒タイム早いタイムでゴールし、順位も24位から18位に上昇しました。

こうしたレースでの選手たちの激走に、幾多の感動のドラマが生まれ、おかげさまで大会は無事に終了し、所期の目的を達することができました。ここに皆様方のご支援ご協力に衷心より厚くお礼申し上げます。

全国から参加された28チームの選手の皆さんは、幾多の障害を克服して、待望の京都の都大路で日頃鍛えた力を遺憾なく発揮し、約50,000名に及ぶ沿道の府民・市民の温かい声援と協力により完走した経験と喜びは、まさに明日に向かう明るい希望と勇気と自信が生まれたことと存じます。

また、大会を通じましてご指摘いただきましたご意見等は、来年開催への貴重な糧といたしたい所存でありますので、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

まずは、略儀ながら書中をもちましてお礼のごあいさつといたします。

平成22年2月26日

全国車いす駅伝競走大会実行委員会
会 長 山 田 啓 二